

青少年の家には子どもを変える“チカラ”がある

学社連携体験活動プログラム開発プロジェクト

子どもたちの生活実態の課題

- ・ 基本的生活習慣の乱れ
- ・ 希薄な対人関係
- ・ 直接体験の不足 等

「自立への意欲」を持てるよう促すべき

中央教育審議会答申（平成19年1月）
「次代を担う自立した青少年の育成に向けて」

学習指導要領

集団宿泊活動については、望ましい人間関係を築く態度の形成などの教育的な意義が一層深まるとともに、高い教育効果が期待されることから、学校の実態や児童の発達段階を考慮しつつ、一定期間（たとえば一週間（5日間）程度）にわたって行うことが望まれる。

小学校学習指導要領解説 特別活動編から抜粋

学校と青少年教育施設が連携して、児童生徒の基本的生活習慣や規範意識、協調性等を育成することを目的とする



青少年教育施設

連携・協力による効果的な活動プログラムの開発



学校

有識者の指導・地域との連携等
(講師・アドバイザー・看護師・ボランティア等)

協力校

平成22年度～平成24年度

- ・ 宇佐市立高家小学校
- ・ 宇佐市立佐田小学校
- ・ 由布市立阿南小学校
- ・ 由布市立大津留小学校
- ・ 由布市立東庄内小学校
- ・ 由布市立西庄内小学校
- ・ 由布市立南庄内小学校
- ・ 由布市立阿蘇野小学校
- ・ 佐伯市立上野小学校
- ・ 九重町立南山田小学校
- ・ 九重町立淮園小学校
- ・ 豊後高田市立香々地中学校

プログラム内容	設定した活動	主な子どもの姿	指導上のポイント
---------	--------	---------	----------

トライ & エラー

- ・ キャンプ生活
- ・ ふりかえり、話し合い

・ ふりかえり時に友だちの良さや共同でのがんばりに目が向くようになった

・ 気持ちを伝え合い、仲間とのかかわり方を繰り返し意識させる

克服体験

- ・ サイクリング
- ・ 久住登山

・ 学校に戻っても「青少年の家での体験に比べればなんでもない」とがんばる姿が見られる

・ 子どもたちに目標と達成のための見通しを意識させる

中1ギャップ対応プログラム

- ・ ここのえ仲間づくりプログラム
- ・ 課題解決型ゲームの実施

・ H24年度は同一中学校に進学する6校の小学校が集合。最終日に自然発生的に班ごとのゲームを行う姿が見られた

体験したことを「ふりかえり」、「一般化し」、「実生活に活かしていく」、という流れでプログラムを組み立てる

地域の大人の支援

- ・ 香々地ブルーーツーリズム協議会との連携
- ・ ひで味噌づくり魚さばき教室地引き網体験

・ 非日常体験により、食生活を改める契機となり声を掛け合うことから協力が生まれることなどを体験した

・ 地元の漁師・板前さんたちから魚の扱い方や網の引き方を学ぶことにより、「本物」が持つ力にふれさせる

教育課程に対応

- ・ 短歌、新聞作り(国語)
- ・ 星と月、太陽と月(理科)など

・ 小規模校では経験できない多人数での授業では、練りあい、学び合いの授業を体験した

・ 各学年の教育課程と青少年の家独自の教材を検討して実施。長期宿泊の中で、通常授業も可能

保護者の声

身の回りのことを自分でしたことにより、親がしていることの大変さに理解を示すようになりました。また、集団生活やいろいろな友だちとのふれあいに楽しさを感じ、いいものだ気づいたようです。



・ 一番がんばったことは登山です。「大丈夫？」と声かけができ、みんなに協力できたことがよかったです。

・ 自分自身に満足できたことは、サイクリングの最後の坂道がきつかったけど、励まし合いながらあきらめずにがんばったことです。



子どもの声